

百草

ひゃく に ち そう

No.28

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・info@hasanz.com
URL・http://hasanz.com/

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！
NPO の非営利活動にご寄付ご支援をお願いします



認定NPO法人6年目を迎え

認定NPO法人たすけあい大田はせさんず
理事長 棧敷洋子

この12日に、東京都の「特定非営利活動法人の認定の有効期間更新審査に係る現地確認」を受けました。東京都生活文化局都民生活部管理法人課 NPO 法人担当の5名の調査官がはせさんず事務所を訪れ、午前10時から午後5時まで滞在して、15種類もの書類（基本書類として定款や役員名簿・会員名簿、総会・理事会の議事録など。加えて内部規程類、帳簿類など）をあらため、9項目にわたる事項（寄付金の募集・管理方法と充当事業、認定基準等チェックなど）についてヒヤリングおよび確認聴取を行いました。

なんだか物々しい印象ですが、要するに、はせさんずが認定NPO法人となって5年が経過したことで、今後も認定NPO法人たる資格があるかどうかの調査を受けたわけです。調査に向けては、事務局内で書類準備を分担して備え、緊張して当日を迎えました。

認定NPO法人の最大の要件は、年間100名以上、5年間で500名以上から寄付を受けていること。これについては、必要数の名前・住所が領収書および帳簿で確認できたとしてOKが出ました。過去5年間の事務状況等についていくらかの懸念が示され、最終的な調査結果はまだ出ていませんが、ひとまずの要件はクリアできたと考えています。改めて、はせさんずの活動に賛同し、寄付を寄せていただいている皆様に感謝いたします。

足元を見れば、このところ活動会員の減少が続いており、たすけあい活動の充実を図ろうにもプランニングに制限がかかりかねない事態が生じています。これを打破するべく、ボランティア研修なども主催して活動者の開拓を進めていきたいと考えています。

言うまでもないことですが、はせさんずの活動のベースはボランティアな精神です。介護保険事業、障害福祉サービス事業、任意後見事業、保育事業、居場所事業など、いずれを進めるうえでも、基本的な精神は変わりません。この思いを共有できる人材の発掘に努め、さらなる研鑽^{けんさん}を支えていきたい。寄付金の使途として、そういう方向も探っていく所存です。

認定NPO法人には、寄付者が税制の優遇措置を受けることができる法人として、法令に従って公平・公正な運営を行っていること、地域の人に開かれた状況であることも求められています。無事に5年を終えられたことに満足することなく、さらにより運営方法、より地域の人のためになる事業をと、めざしていきます。

ますますのご理解とご支援をお願いいたします。

第21回通常総会開催

第 21 回通常総会を、5 月 26 日(日) 10 時から、
はせさんず事務所 1 階（デイホーム）で開催しました。

社員総数 24 名のうち、出席者 18 名、委任状表決者（議決権行使含む）6 名により総会は成立し、下記 5 議案が異議なく承認されました。

- 第 1 号議案 2018 年度事業報告
- 第 2 号議案 2018 年度決算報告
- 第 3 号議案 2019 年度事業計画（案）
- 第 4 号議案 2019 年度予算（案）
- 第 5 号議案 役員改選（案）



●2019（平成31/令和元）年度事業計画

〔会員制活動事業〕

年間 7,800 時間を目標とします。NPO に必要な寄付活動をよりいっそう強化し、遺贈寄付の具体的な手法を検討していきます。活動者の増員を図るため、広報など具体的な取り組みをします。守秘義務、安全・リスク管理に配慮するよう移送活動会員の研修会を開催します。

連携外部団体に継続参加し情報交換するとともに、地域の団体とも交流を図ります。

〔元気かい〕

元気な高齢者の介護予防活動として着実な運営を続けます。地域ごとに広めていくという地域拠点の活動とリーダーの育成、人材確保に努めます。

〔市民後見事業〕

任意後見活動を中心に、養成修了者による見守り活動を促進していきます。法人内部の職員に対する研修も実施します。

〔居場所事業〕

寄り道カフェは、池上駅前商店街の貸しスペース「テラッコ池上」に移動して運営します。相談事業や介護予防体操、各種講

座を組み合わせ毎週開催します。

〔介護保険事業〕

大田区総合事業や自費サービスも合わせた活動目標は、訪問介護が年間 10,860 時間、居宅介護支援は年 1,440 件のケアプラン作成と月 4 人程度の認定調査、通所介護は年間利用者 4,140 人です。

今年も職員の介護キャリア段位取得や、ヘルパーのレベルアップ研修に取り組みます。通所介護は地域密着型として地域との交流を深め、外出のほか新しいレクリエーションメニューの充実に努めます。

〔障害福祉サービス事業〕

年間 9,600 時間を活動目標とします。移動支援や同行援護に携わるヘルパーの資格取得を支援します。外部会議にも継続して参加し、サービスや研修などで事業者間の連携を図ります。

〔保育事業（大田区委託事業）〕

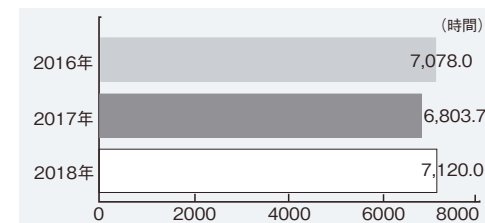
調布、蒲田、大森、糎谷・羽田の各地域庁舎で実施される母親教室の中での保育を年間720時間ほど担当します。

〔その他の事業〕

外部への講師派遣、学校団体の職場体験、

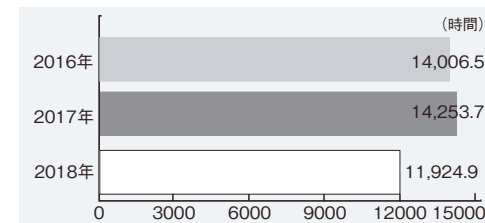
● 2018（平成 30）年度事業報告資料（3 年間の部門別活動状況）

〔会員制活動事業〕



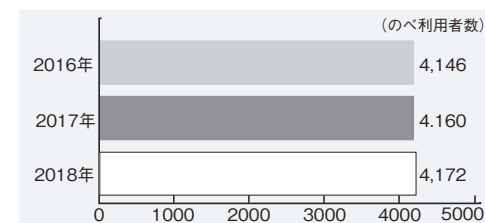
目標の 7,800 時間に対し 91.3% の実績ではあったが、活動時間、件数とも前年度より増加した。たすけあい活動のニーズやサービスの柔軟な対応について検討を継続している。

〔介護保険訪問介護事業〕



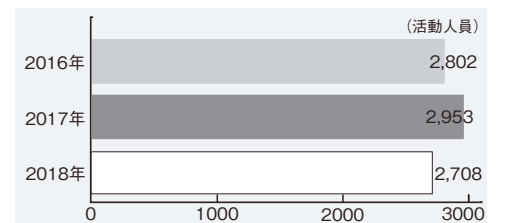
目標の 14,160 時間に対して 84.2 % 実績で、前年度比も 83.7% と、活動件数、利用者数とも減少した。介護職員の退職が予定されていたため、利用者確保に動けない状況があった。

〔介護保険通所介護事業〕



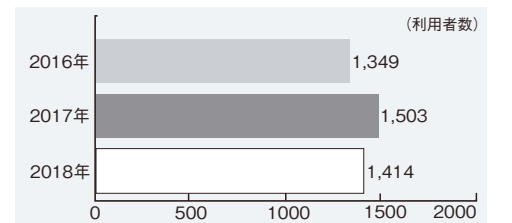
目標の利用者数 4,140 人に対し 100.8% の実績で、前年度比も 100.3% と利用者数を維持している。ただし施設長の退職があり、相談員や介護職の配置による人件費が増加した。

〔元気かい〕



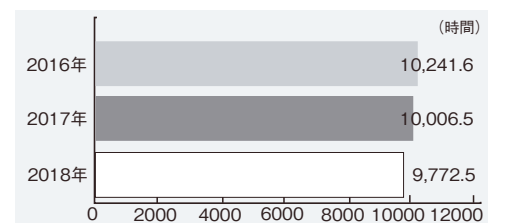
健康体操、初心者健康麻雀、歌のつどい、俳句、英会話、季節のイベントなど順調な活動を行った。特に定例会、絵てがみは定員満席状態で好評、麻雀も平均 10 卓と定着している。

〔介護保険居宅介護支援事業〕



非常勤ケアマネジャー退職で、要支援者を含む利用者数の目標 1,440 人に対して 98.2% の実績、前年度比も 94.1% と減少したが、利用者に影響がないよう常勤者が配慮・対応した。

〔障害福祉サービス事業〕



目標の 9,960 時間に対して 98.1%、前年度比は 97.7% の実績。対応できるヘルパーが不足しているため、利用者を複数の事業所で連携しながら支援する方向を進めている。

現場研修などを引き受け、地域貢献と同時に NPO の活動の実際を知ってもらいます。

●決算・予算について

2018（平成 30）年度の会員制活動、介護保険、障害福祉サービス等を合わせた法人全体の総収入額は 1 億 4,437 万円（前年度比 94.1%）、総支出額は 1 億 4,626 万円（前年度比 99.8%）。当期収支は 188 万円

のマイナスとなりました。会員制活動で予想以上に多くの寄付金がありました。また、介護保険訪問介護および障害福祉サービス事業で、年間活動時間は目標を下回りましたが、収支は黒字と健闘しました。しかし、通所介護事業で、利用者数については前年度なみを維持しましたが、人件費等の経費が増えて、マイナス決算の要因となりました。

2019（平成 31/ 令和元）年度の予算は

はせさんず、ご寄付をありがとうございました

2018(平成30)年度寄付者

安齋元三	磯 由利	上田隆正	鵜飼栄子	白田豊子	漆原富紀子	大木幹夫
小田登起	乙部重和	加藤博子	唐津宏子	北原美佐子	小林恵子	小松 緑
酒井朝子	栈敷洋子	篠田明夫	清水桂子	清水はりえ	鈴木悦朗	高際初江
中川 啓	那須恵子	原田和恵	原田光明	増渕友美	宮 輝彦	森みつ子
矢嶋早苗	山田麻澄	吉田安男				

以上 31 名（敬称略五十音順）総額 2,513,514 円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました。なお、大田区より福祉有償運送補助金として 534,500 円の交付を受けています。フリーマーケット売上高は 388,639 円でした。

法人全体で 1 億 4,190 万円（前年度比 98.3 %）。たすけあい活動では引き続き寄付金の増加をめざします。訪問介護・障害福祉サービス事業は介護職員の不足を考慮し、前年度実績よりやや少ない活動目標としています。居宅介護支援事業は介護支援専門員の補充を行い、前年度実績以上のケアプラン作成をめざします。通所介護事業は、事業所体制加算の申請を行って事業収入の増加を図るとともに経費の見直しを行います。

●役員改選

任期満了に伴う役員改選があり、候補者全員が承認されました。理事の互選により栈敷洋子さんが理事長に再選されました。

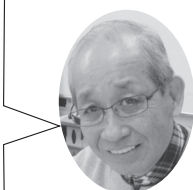
新任役員挨拶



理事 小林恵子さん

発足メンバーながら、これまで大した働きもできずにきました。長らく監事として見守らせていただきありがとうございます。まだフルタイムの仕事をしながらですが、少しずつ軸足を移していければと願っています。どうぞよろしく！

会社退職後に小学生時代の恩師の紹介で、はせさんず活動会員となり 12 年間移送関係事務を中心に事務局勤めをしましたが、このたび監事に任命されました。微力ではございますが、在務中に得られた福祉関係の知識と経験を基にお役に立てればと思います。



監事 吉田安男さん

2019(平成31/令和元)年度月別活動予定

- 4 月 『はせさんずニュース』No.86(春号)発行、寄り道カフェ
 - 5 月 第21回通常総会、寄り道カフェ
 - 6 月 ヘルパー研修会、商店街寄り道カフェ
 - 7 月 『百日草』No.28発行、移送活動者安全研修会、暑気払い懇親会(事業説明会)、商店街寄り道カフェ
 - 8 月 成年後見制度内部職員研修、池上まつり寄り道カフェ
 - 9 月 介護職員検診(検便)、『はせさんずニュース』No.87(夏号)発行、ボランティア講座、商店街寄り道カフェ
 - 10月 職員防災避難訓練、保育者研修会・懇親会、ヘルパー研修会、商店街寄り道カフェ
 - 11月 フリーマーケット参加、『はせさんずニュース』No.88(冬号)発行、職員健康診断、商店街寄り道カフェ
 - 12月 ボランティア講座、年末懇親会、商店街寄り道カフェ
 - 1 月 『はせさんずニュース』No.89(新春号)発行、障害者支援研修会、商店街寄り道カフェ
 - 2 月 講演会、ヘルパー研修会、商店街寄り道カフェ
 - 3 月 移送活動者情報交換会、商店街寄り道カフェ
- ※ほかに中・長期プロジェクト会議を毎月 1 回程度開催

2019(平成31/令和元)年度役員

理事 大澤恵美子 乙部裕美 金子文一
小林恵子(監事→理事) 佐藤京子 佐藤 悟
栈敷洋子 高木清彦 竹西 理 矢嶋早苗
監事 坂口郁子 吉田安男(新任)

会員制活動

おどることなく初心に戻り、移送活動

移送活動は安全が第一、高評価をいただいているのも安全運行できているからこそだと思います。高齢者の運転事故が社会問題化しています。大多数が高齢者の部類に入るドライバーとしては、初心に戻り自らの運転を見直していきたい。(高木清彦)

ヘルパーステーション 研修を充実してレベルアップ

ヘルパー一人ずつに介護技術やサービスについての自己申告書を提出してもらい、できていること、レベルアップが必要なこと、めざしたい資格などを確認して、個別の勉強会や講師を招いた全体研修を行います。外部研修会への参加や資格取得の支援を行い、さらにサービスの質の向上をめざします。(榎拓巳)



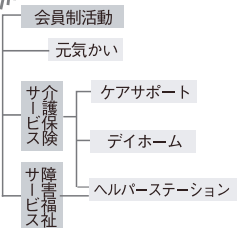
ケアサポート 新たな相談の機会を設ける

「介護のことで相談したいけど、どこに相談したらいいのかわからない」という地域の人たちの困りごと、介護や介護サービスに関する不安などを相談できる機会を、池上出張所で開催されている「ふれあい茶話会」や、新たにオープンした「テラッコ池上」内で定期的に設けていきたいと思っています。(平山明美)



mini News

各部門
今年度は
ここが重点！



デイホーム 昼食の形態を変更

デイホームの昼食によりいっそうの満足感を得てもらいたいと、6月から利用者の昼食の形態を変更します。



これまで温かい食事を供することに努めてきましたが、検討を重ね、京都の業者から国産のだしにこだわった、主菜・副菜を取り寄せることにし、器も漆器にするなど工夫しています。(岡田香)

元気かい 自分は元気、みんなも元気に！

今日用事（キョウヨウ）と、今日行く（キョウイク）ところを提供している元気かい。健康体操や、十人十色で心や想いを伝える絵てがみや俳句、頭を使い・運に喜ぶ麻雀など多彩な活動。今を楽しみ、蓄積した経験を生かす。自分も、みんなの頭も体も、元気になるために、出合いを広め継続していきたい。(佐藤悟)



■はせさんず第22回講演会

おだやかに最期を暮らす

—ホームホスピスを考える—



講師：嶋崎叔子(しまざき よしこ)さん
 NPO法人ホームホスピス武蔵野理事長、ホームホスピス 樑 運営。
 2019年3月30日(土) 大田区池上会館第2会議室にて

死は誰もが避けられません。最期をどこでどうすごしたいと思われませんか。介護が必要になって一人暮らしは心細く、家族だけに頼ることも負担が大きく悩めます。自分の家と同じような生活ができ、見守ってくれる場所があれば、どんなにおだやかに暮らせるでしょう。地域でそれを実現しようと、本人、家族、そして介護する人が支え合いながら暮らす家＝ホームホスピスを小平市に5年前に開設し、運営している嶋崎叔子さんのお話を聞いてみましょう。

「母の病」そして「看取り」

母が入ったホスピスで

30年近く前ですが、母が胆嚢がんで亡くなりました。わかったときはもう末期で、娘には母は永遠に生きている感覚があったので、そのショックはすごいものでした。

桜町病院の聖ヨハネホスピスに入所した母との思い出を、遺族会で発行している冊子に書いています。それから抜粋します。

「みるみる弱っていく母を見ていてさえ私の気持ちは、ある意味、すごく落ち着いていました。それは、ホスピスで人の心をいちばん大切にしてくれる人々に出会ったからだと思っています。」「母は母でホスピスの方々のあたたかさに触れながら最後まで、心は元気でした。」「私は母のベッドの横に簡易ベッドをおき、まるでホスピスの住人のように居座って、母のために母の気に入るようにしてあげました。」「母を亡くしたつらい思いは今も忘れられませんが、その悲しみは時とともに形をかえ、着実に小さくなってきています。このごろ私は少しずつ、以前は知ることのなかった人の心の豊かさを感じられるようになりました。これは、母から私への最後の贈り物であると思

い、これからもずっと大切にしていこうと思います。」

遺族会で世話人を務めて

母をホスピスで看取ったあと、20数年ホスピス遺族会で世話人をしました。その懇談会で「がんだけではなく、病気をもち苦しみながら暮らしている人々のすべてが、私の家族のように感謝しながら旅立っていけるような社会になってほしい」と話した人がいました。私も、母の最期のときを母とともに家族全員ですごしました。人が息を引き取るようすを経験したことのない私たちの不安や怖さを取り除いてくれたのは、ホスピスの医師であり、看護師であり、そしてボランティアさんでした。いつも私たちに寄り添っていてくれました。

介護福祉士となって

私は自分にもできることがあるかもしれないと思い、介護福祉士の資格を取り、一人暮らしの認知症の方のお宅を訪問したり、グループホームの夜勤をしたりしました。しかし、介護保険という限られた制度の中で、介護を必要とする人とのどのくらい心を通じ合わせてお世話をする事ができるかという疑問が頭から離れなくなりました。

そのようなとき、宮崎で空き家を借りて

認知症の人や高齢者と住み始めたという「ホームホスピスかあさんの家」の新聞記事を見ました。私はこれだと思って、かあさんの家を見学し、そのままそこでボランティアとなりました。

ホームホスピス設立へ

遺族会の経験や宮崎での体験を通して、ホスピスとは設備の整った施設・場所だけをいうのではなく、人の心のあたたかさ、思いやりやおもてなしの心の中にあるのではないかと感じました。それをしっかり理解している介護者がいれば、あえてホスピスという施設でなくてもいいのではないかと。がんになっても苦痛なく住み慣れた自宅にいたい、病気や障害を抱えながらも一人で生きたいという人のそばにいて、苦痛を和らげ、病む人の心の支えになることができるのだと学びました。人生の幕を閉じるとき、家族や親しい友人に囲まれて、おだやかにすごせたらどんなにいいか。私たち介護者は、そのお手伝いができると思い、共感する仲間とともにホームホスピスを作ることを決意しました。

樑 (ゆずりは) の由来

樑の木は、初夏に新しい葉が生えてから、古い葉が落ちていきます。「あとは頼んだよ」と新葉に託し譲るように散っていくことから「譲る葉」「ゆずりは」とよばれるようになったそうです。

人類も、多くのものを譲り受けてこの世に生まれ、また次の時代に譲っていくという営みを繰り返しています。その事実を託し伝えていきたいと思ってこの名前をつけました。譲る心と譲られる心、その受け渡しの手伝いできたかと思っています。

「暮らし」と「いのち」を最後まで支える

ホスピタリティ＝おもてなし

まず、ホームとは家族の生活や団欒があるところ、やすらぎを感じる場所、心のふ

ホームホスピス樑の暮らし



るさと。次に、ホスピスの語源はホスピタリティで「おもてなし」のこと。日本ではがんの末期とエイズの人が最期のときに入る病院の病棟と考えられていますが、もとはイギリスのシスターが疲れた巡礼者をいやすために教会でお世話をしたのが始まり。

ホームホスピスとは、ホスピスの理念に沿って、病や障害があっても最後まで個人の尊厳をもってその人らしく暮らせる家。住み慣れた地域の中で、あたたかいおもてなしを受けながら、その人らしく暮らす第二のわが家です。

ホームホスピス樑はこんなところ

1. 既存の住宅を活用し5人程度が暮らす

宮崎では古い民家を利用しており、庭があって広々としていますが、東京で一軒家を探すのはとても苦労しました。1年ほどかけてやっと今のマンションを見つけて、入居者5人で始めました。

2. さまざまな病・障害の個人・家族が

がんの末期の人、高齢で一人暮らしができなくなった人、麻痺があって介護が必要な人など、入居者はさまざまです。

3. 365日24時間ヘルパーが常駐

日勤2名、夜勤1名。日勤のときは身体介護だけではなく、料理もします。

4. 住人・家族・ヘルパーが支え合う

家族は住んではいなくても、毎日のように来て一緒に食事したり、介護者にお茶をいれてくれたり、大きな家族のようです。



5. 医療としっかり連携

ホームホスピスは、医療との連携が欠かせません。地域のクリニックから医師3名と、そこの訪問看護師などが入っています。

6. 地域とつながる中で「人生の物語」が

地域の人や遺族がたびたび訪れます。たとえば美容師の人がボランティアでヘアカットに来たり、お花をもって来てくれたり、お料理を手伝ってくれたり。

規則のないのが規則

リビングの中央にテーブルがあって、入居者は日中そこですごします。隣のキッチンでスタッフが食事を作ります。リビングを囲んで個室が5つあり、夜は個室のベッドで寝ます。個室のドアはかならず半分ぐらい開けておきますので、リビングにいる夜勤スタッフに、布団のがさがさという音でも聞こえるぐらいの広さです。

自分がやりたいことは自宅でやっているようにしてほしい、生活の中でその人の力を引き出すようにしたいと考えています。狭い部屋ですが、入れば何でもなじみのものを持ち込んでよいので、お位牌いはいをもってきている人もいます。

お化粧をしている人。新聞を毎日しっかり読んでいる人。ベランダから見える街角の赤いポストが気になってスタッフと一緒にわざわざ見に行く人。ミシンで雑巾を縫ってくれる人。ほかの人がミシンを使うのを見て、左麻痺があり車いすで私なんかもう何もできないわと言っていたのに、私も

何かやろうかしらと刺繍ししゅうを始めた人。

マンションのベランダに少し花を作り、暖かい日などは入居者も一緒に収穫をします。皆で綾取りあやとりをしたり、たまには料理を手伝ってもらったり。きゅうりもみの塩加減を教えてくれる人もいて、やれば私たちスタッフより上手なこともあります。

入居者のわがままもけっこう聞いてあげる。たとえば、朝いつもはトーストなのに今日はトーストの気分じゃないわと言うと、それじゃご飯にしましょうかと変えることもあります。

樑で親しい間柄になる

最近亡くなった人が、その少し前、ひなたぼっこをしながら入居者同士で手をつないでいたことがある。樑で巡り合って、こんな間柄になって、本人もよかったでしょうが、私たちもうれしかったです。

夜になると入居者と個別に話す時間ができ、いろんな話をします。夜は不安な気持ちになることもあるので「私ずっといるから心配ないよ」と言う。「ずっといてね」と言われる。そんなとき私たちはとてもうれしい気持ちになります。

家族やボランティアも一緒に

入居の契約をするときには家族とよく話し合います。家族のサポートがないと私たちはやっていけないでしょう。

衣類の衣替えは家族がします。息子さんが4人いる入居者の場合は、お嫁さんたちも代わる代わる来ては、衣類のボタンつけなど、スタッフの仕事までしてくれます。

また、樑はデイサービスではないので決まったりハビリはしませんが、家族が来てリハビリの相手をします。たとえば、幼稚園の先生だった娘さんが、お母さんのために風船を飛ばして一緒に遊んだり、「おばあちゃん、卓球しにきたよ」とお孫さんが来たり。今は100歳になったのであまり動けません、ラケットを持つと目のかがやき

が違います。

ボランティアにも助けられています。樑ができたところから毎週水曜日に2時間ぐらい部屋の掃除をしてくれる人もいます。

クリスマスには、家族やボランティアが来て歌ったりピアノを弾いたり、ケーキとかいろいろなものを作って、皆が持ち寄って楽しくひとときをすごします。

継続が何より重要。そのために…

医療との連携を強固に

医療との連携で大切なことは、情報の共有、ケア体制の確認、サービス提供側が不安や疑問に思っていることをすぐに相談できることの3つ、あとは、それぞれの立場・役割を理解すること。医療者と介護者が別々のことを言っていたら、いちばん困るのは入居者ですから、しっかりしたチームを組んでいかなければいけません。

最大の問題は介護職の確保

最大の問題は介護職が長く勤めてくれないことです。大きな施設の歯車になるより樑で働きたいと最初は張り切っている人も多いのですが、2年勤める人は少ない。介護職は今、辞めてもすぐ次へ就職ができる。大きな施設だときちんと休める、ちょっと忙しくてもそちらのほうがいいのか。うちも労働基準法にそって休みはありますが、誰かが風邪をひくとその代わりをしなければならぬので大変です。また、賃金の問題もあるでしょう。決して高給ではありませんから。

さらに、入居者5名という家なので空間が狭い。一人ひとりに向き合うというのはとてもいいのですが、密着するのが介護者にとって負担になるデメリットもある。特に夜勤は1人なので、入居者が起きてきて何を言われるかわからない、人と向き合うのがつらくなったと、残念だけど辞めたということもあります。

介護労働安定センターによる、従業員10人以下の事業所の離職率がいちばん高く、20人、50人と従業員数が多くなるほど離職率も低いという調査があります。

運営費用の安定化

収入はおもに介護保険報酬と入居者負担金。介護保険訪問介護事業所も併設して、1人の介護職が訪問介護事業所と樑の両方に所属する形で入居者の負担を少なくしています。支出は人件費が75%。収入を100とすると支出は88として差の12ぐらいはプールしています。

樑は入居者定員5人ですが、5年間で19人、年間で4名ぐらい亡くなっている、さらに去年は9月から12月に毎月亡くなって、最後には入居者が1人になってしまいました。そうすると、入居の待機者もいますが、1か月空いて収入がないこともある。そういうときなどに備えています。

未届け有料老人ホーム？

行政から見ると、ここは有料老人ホームになるそうです。私たちは違うと言っていますが、東京都には未届け有料老人ホームとなっています。私たちは、ホームホスピスというカテゴリを作りたいと思って、今、少しですが闘っています。私の代ではできないかもしれないけど、次の時代の若い人たちがこういうところはいいいと思って、少しでも働きやすい環境のあるところになっていくように継続していきたい。

理解され、選択肢の一つになっていくように

NPO法人を2013（平成25）年4月に作り、ホームホスピス樑がスタートして5年。

このホームホスピスが大切なところだと理解する人が増え、自分が年をとったらどうしようというときの選択肢の一つにホームホスピスがなれたらいいと思います。自分はこういう最期を迎えたいという選択肢が増えるということは、ちょっと豊かに暮らせるということなのではないでしょうか。

私たちのあゆみ

2018(平成30)年4月～2019(平成31)年3月

- 2018.4.11(水) 大田区訪問介護事業者連絡会・研修会
以後全10回 棧敷
- 『はせさんずニュース』No.82発行
以後9.27No.83、12.3No.84、1.31No.85発行
- 13(金) 大田 NPO 活動団体交流会（役員会、議員懇談会、学習会） 以後全18回 矢嶋
- 池上まちおこしの会環境部会 トマト苗配布、スポーツゴミ拾い大会等全13回 佐藤
- 15(日) はせさんず寄り道カフェ 以後全10回
- 26(木) 東京都社会福祉協議会たすけあい部会 以後全5回 矢嶋
- 大田区居宅事業者ネットワーク 以後全11回 棧敷・榎
- 5.22(火) 大田区介護支援専門員連絡会（総会、研修会）
以後全12回 平山・清水・鈴木
- 25(金) 大田区自立支援協議会 以後全9回 棧敷・榎
- 27(日) 第20回通常総会 はせさんず事務所デイホームにて
- 6.18(月) 「大田区高次脳機能障がい家族会」主催の講演会、会代表との勉強会など
以後全3回 平山・清水・鈴木
- 20(水) 安全運転管理者講習受講 大澤
- 27(水) 地域ネットワーク「ふれあい茶話会」参画
以後全12回 平山・清水・鈴木
- 29(金) 『百日草』No.27発行
- 7.18(水) デイホーム運営推進会議 以後全2回 岡田・風間・蔵野・矢嶋
- ヘルパー研修会「生活援助の調理編」
池上会館にて 参加者19名
- 19(木) 大田区福祉有償運送運営協議会 棧敷・吉田
- 8.26(日) 第16回池上まつり（寄り道カフェの模擬店出店）
参加者39名（全来場者2万人）
- 29(水) さわやか福祉財団全国協働戦略会議&県レベル担当者会議 以後全2回 佐藤

No.82 春号では「成年後見の利用とはせさんずの市民後見活動」、No.83 夏号では「成年後見の利用についてアンケート『わたしのこれから』」、No.84 冬号では「移送サービス活動会員紹介」、No.85 新春号では、「『今、問い直そう NPO のボランティア』新春座談会」を特集しました。



『はせさんずニュース』No.84で移送サービス活動会員紹介



スポーツゴミ拾い大会。踏切はタバコの吸い殻だらけ



デイホーム運営推進会議



ヘルパー研修会「生活援助の調理編」

■ご冥福をお祈り申し上げます

賛田 徹馬さん 小方 シズエさん 小山 彦さん 大木 幹夫さん 乙部 重和さん
木村 隆志さん 小山 孝雄さん 高橋 和子さん 根本 信彦さん 兵藤 松江さん
細田 ミサ子さん 丸山 修司さん 美濃 好子さん 渡邊 晃さん

(会員のみ)

- 10.2(火)・4(木) 大田区職員研修講師 矢嶋
- 4(木)～11.9(金) 大田区職員現場体験研修（協働体験編）受け入れ
全5日間 9名
- 10.19(金) はせさんず防災・避難訓練 参加者（利用者&職員）25名
- 21(日) 行動援護従事者養成講座（4日間コース）受講 榎
- 21(日)～ 大田区社会福祉協議会介護職員初任者研修講師
- 11.10(土) 全3回 矢嶋・岡田
- 11.3(土) OTA ふれあいフェスタ、フリーマーケットに出店
大田区平和の森公園にて 参加者のべ23名
- 12(月) 大田区介護支援専門員連絡会タウンミーティング参加
清水
- 16(金) 市民福祉団体全国協議会居住支援研修&学習会
以後全2回 棧敷・佐藤
- 21(水) 元気かいピアノデュオコンサート
大田区民プラザにて 参加者56名
- 26(月) 大田区介護保険事業者連絡会主催「口腔ケアについて
研修会」受講 ヘルパー5名
- 27(火)～29(木) 大田区立大森第4中学校職場体験受け入れ 2名
- 12.1(土) 2019年版パラアートカレンダー制作・販売 149部
- 2019.1.7(月) 大田区・大田区社会福祉協議会・多文化共生推進セン
ター主催大田区災害ボランティア訓練参加 佐藤・平山
- 11(金) 介護予防運動指導員養成講座（5日間コース）受講 蔵野
- 30(水) 大田区医師会主催「地域包括ケアの会」参加
以後全2回 清水・鈴木
- 3.2(土) 東京のくらしの足を考える会（福祉有償運送を行う
団体有志の会）参加 佐藤
- 8(金) 大田区集団指導（介護支援専門員）参加 平山
- 30(土) はせさんず第22回講演会
「おだやかに最期を暮らす—ホームホスピスを考える」
池上会館にて 参加者62名



防災・避難訓練。消防署員よりの講評



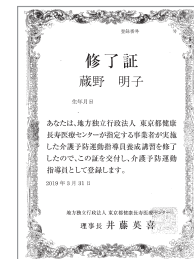
今年もフリマ大にぎわい



ワルツに酔いしれた元気かいピアノデュオコンサート



2019年版パラアートカレンダー



介護予防運動指導員養成講座の修了証

はせさんずの新しい居場所できる

■デイホームでの寄り道カフェ終了

2014（平成26）年5月から日曜日のデイホームで始めた寄り道カフェは本年5月でいったん終了し、新たな方向を探ることになりました。これまで、はせさんずを知る人は来てくれるものの、地域の人になかなか来てくれません。要因はおもに3点。

1. 通りに面する部分が壁面で中が見えず、入口も横で、入りにくい雰囲気である。
2. 近所の人とはそれほど居場所を必要としていないのではないかと。
3. 日曜日は、用事があったり家族がいたりで出にくいのではないかと。

■新しい居場所の出現

5年間の運営でしたが、いったん終了して、これらの要因をクリアすべく検討を重ねていました。そんななか、新しい居場所の候補が現れました。池上駅前通り商店街の中にある貸しスペース「テラコ池上」の利用です。



さっそく職員何人かで見学し、毎週火曜日の3時間を借りることにしました。6月から1年間の契約です。NPOに貸したいというオーナーの不動産会社の意向があり、レンタル料も格安で借りることができました。

■新たなカフェ始まる

初日の6月4日は14名が集まり、これから、この場所でどんなことをしたいか、どんな居場所であってほしいかなどを話し合ってみました。

これまで行っていたタオル体操やボール体操は好評でこれからもやってほしい、介護保険、成年後見、自治体の制度などの相談コーナー、訪問介護のヘルパーさんたちが交流したりする場所がほしい、といった意見が出ました。



■まずはこんなメニューで

第1火曜日	相談カフェ・タオル体操
第2火曜日	歌おう元気かい・チェアヨガ・英会話
第3火曜日	寄り道カフェ・タオル体操
第4火曜日	ヘルパーカフェ・チェアヨガ

開設時間は
11:20～14:20
です！

このように始めてみたいと思います。お弁当、飲み物の持ち込み自由です。みなでお弁当を食べながら息抜きしましょう。どうぞ遊びにおいでください。（矢嶋早苗）

編集後記

高齢者が起こした事故・事件が報道されるたびに心が痛む。しかし、地域で安心して暮らしたいと思っているのは高齢者だけではない。お隣の人、地域の人が、より安全で、安心してすごせる活動をしている高齢者・地域住民が数多くいることを知ってほしい。（佐藤悟）